１．中小企業診断士に挑戦したきっかけ

私が中小企業診断士の勉強を始めたのは、大学生時代でした。そのころは、リーマンショックの影響で有効求人倍率が１倍を下回り、内定が取り消されるような厳しい就職状況でした。また、経済状況をみても平均所得の低下や非正規求人の増加、企業数の減少などにより、社会人になっても明るい未来が見えませんでした。

そのような中で、会社に依存せず自分の力で収入が得られ生きていけるように、自分の価値を高めていきたいと思い中小企業診断士の勉強を始めました。

２．受験歴

年度	学習方法	１次試験	２次試験
2009 年	予備校	合格	CBBB
2010 年	予備校、他の勉強会		BBAA
～ブランク～			
2017 年	独学	合格	BBBA
2018 年	弱小企業診断士勉強会	合格	DABB
2019 年	弱小企業診断士勉強会	合格	合格

３．１次試験の学習方法

１次試験は、予備校に通いカリキュラムに合わせて学習しました。

＋αで以下のようなことをしていました。

・ミニノートに単語と説明を書き、通学途中などの隙間時間に勉強していました。

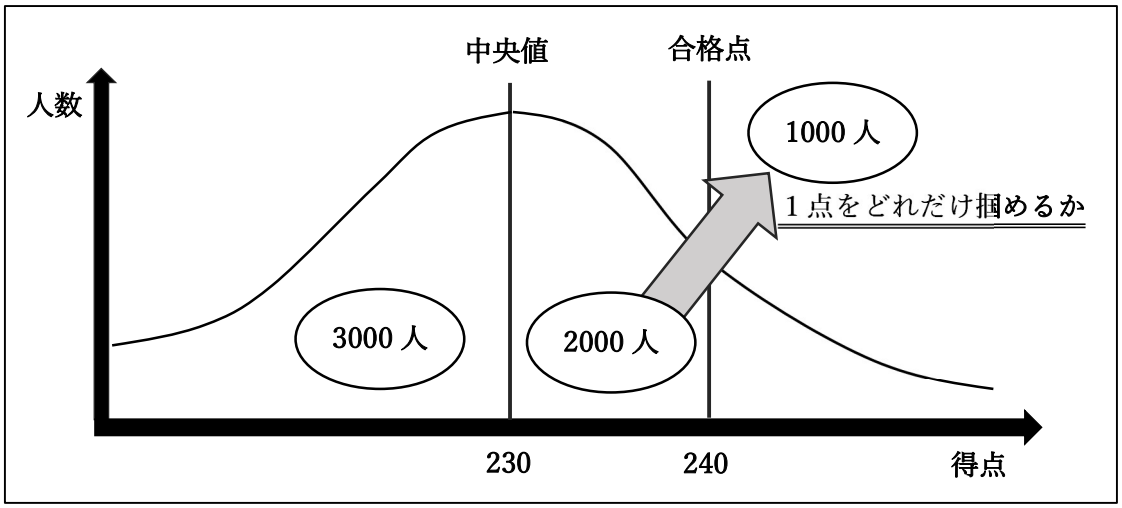
・過去問は１度解いたら、問題に正解と解説を書いて回転数を高めました。

・意識として、暗記よりも理解を重視することで捻った問題の対応力を高めました。

４．２次試験の捉え方

１次試験を合格すると次は２次試験ですが、私を含めて多くの方が２次試験で何度も悔しい思いをしています。そのため、中小企業診断士試験の山は２次試験だと思っています。中小企業診断士の２次試験の評価において、私もでしたが「あと数点で合格だったのに…」「A 判定が２つあったのに…」などの合格まであと一歩の声をよく聞きます。そのため、私感ですが 230 点付近が得点の中央値と考えています。令和元年度の２次試験は、受験者数が約 6,000 人、合格者数が約 1,000 人でしたので、得点分布は以下のようになります。

l Rights Reserved.



注目したいのが、中央値の 230 点から合格点の 240 点の間で合格まであと一歩の人達が 2,000 人もいることです。特に、合格率が約 20%の 2 次試験の中で、前年度に悔しい思いをしてリベンジをする多年度受験の猛者がたくさんいます。
そのため、**『1 点をどれだけ掴めるか』**ということを常に意識して学習し、試験当日においても信念として解答を作成しました。

５．２次試験の学習方法
私は、合格までブランクを含めて 11 年間かかりました。予備校や弱小企業診断士勉強会などで学習し、様々な能力を身につけました。その中で、合格するまでに身につけた重要だと思う能力をご紹介します。
①Study
１、２年目の学習では、予備校に通いました。予備校では、いわゆる中小企業診断士試験のお作法といわれるような書き方（例：理由は、①～、②～である。）や基本的な知識を身につけました。この時は、予備校の模範解答を目標として、いかにして再現するかというお受験のような勉強の仕方でした。
②Think
独学や弱小企業診断士勉強会での学習です。自分で論理を組み立てて解答を導きだす思考力を意識しました。特に意識したことは、80 点レベルの解答を作成する能力です。過去問を何時間もかけて考えて自分の腑に落ちる解答を作成しました。また、その解答を導くプロセスや 80 分の使い方などを試行錯誤しました。
③Discuss
弱小企業診断士勉強会で議論する際には、どれだけ気づきが得られるかを意識しました。そのために、自分が重要だと思ったことは発信して、メンバーの意見を取り入れて思考力に磨きをかけました。また、解答の議論では 10 打席 3 安打でもいいので、メンバーの解答にアドバイスして気づきを共有することを意識しました。

④Condition

80 点レベルの解答が見えて、導き出すプロセスを磨き上げたら、あとは試験本番でどれだけ力を発揮できるかが重要になります。意識したことは、心・体・技のバランスです。不安に思ってることは全て解決して心を落ち着かせ、体を理解して整えることで、磨き上げた技を 100%試験本番で出せるように心掛けました。

６．弱小企業診断士勉強会のメリット

私は２年間、弱小企業診断士勉強会でメンバーと共に学習しました。メンバーと議論を重ねる中で、様々な気づきを得ることができ、その積み重ねた気づきを試験本番で活かせたことが合格の要因だと考えています。

そこで、具体的に弱小企業診断士勉強会での学習と得られたことをご紹介します。

①合格への課題を明確にしたこと

私が弱小企業診断士勉強会の入会を決めたのが 2017 年の年末に開催された説明会でした。途中で中小企業診断士を諦めてブランクがあったこともあり、2017 年度の２次試験を受けた感想が試験の傾向が変わったということでした。そこで、なぜ対応できなかったのかを考えて１枚の紙に書き出しました。そして、明確にした課題が弱小企業診断士勉強会で解決できると考えて入会しました。入会後はその紙をコピーしてメンバーに配りました。

弱小企業診断士勉強会に入会して合格するまで２年かかりましたが、入会当時から変わらず勉強会で学習する目的の軸にしていました。

②過去問分析について

弱小企業診断士勉強会の学習は、過去問を基にしてメンバーで議論しました。具体的には、以下のようなことを議論しました。

・設問・与件の分析

・事例企業の経営戦略・課題

・解答議論

議論する中で意識していたのは、どれだけ気づきが得られるかという点です。そして、自分の考えを発信して、メンバーの考えを吸収してどれだけ視野を広げられるかが重要だと考えています。メンバーと切磋琢磨して議論を重ねることで、試験本番において難しい問題の対応力などを高められたと思っています。

③答案分析会について

答案分析会は、2018 年に立案したプロジェクト企画です。２次試験は、正解が発表されないため、合格するにはどのような解答を書けばいいのかが不明確です。弱小企業診断士勉強会では、メンバーの再現答案と開示した得点の資料が蓄積しています。その再現答案と得点を基に答案分析会として、メンバーで何を書けば高得点を取れるのかを議論しました。高得点の解答の共通点や高得点とあと一歩の解答の違いなどを議論することで、80 点レベルの解答が明確になりました。

７．弱小企業診断士勉強会でより気づきを多くするために

中小企業診断士の２次試験は、過去の合格者数を見てみると一定になるように調整されていると考えられます。また、得点開示の結果を見ても特に事例Ⅳでは得点調整されているように感じます。そのため、相対評価が強く椅子を取り合う試験といえます。

弱小企業診断士勉強会のメンバーは、共に切磋琢磨して合格を掴み取る仲間である一方、ライバルでもあります。そのような関係の中で、より気づきを多くして共有するために意識していたことをご紹介します。

①素直な心

勉強会では議論が中心になりますので、まずは素直な心でメンバーの意見や考え方をありのままをありのままに受け入れることです。その後に、自分との考え方の違いを発信して議論を重ねていくと、より気づきが生まれます。

②謙虚な姿勢

勉強会は組織ですので、カリキュラムの作成や運営の連絡などが必要になります。そのため、勉強時間を割いて勉強会の運営の連絡などをして頂いたら感謝の気持ちを伝えることが重要です。議論においては、自分の解答にアドバイスをして頂いたら尊敬の思いを持ってアドバイスをお返しすることを心掛けました。

③利他の精神

組織の一員として、自ら率先してメンバーに貢献することは、信頼を得ることができます。勉強会の連絡や勉強会の会場の手配、メモの作成・配布など自分ができる範囲で何でもいいと思います。このような利他の精神溢れる人には、メンバーから解答のアドバイスを多く頂くことができます。

８．最後に

最後になりますが、弱小企業診断士勉強会では、利害関係や目上目下、年上年下などはないです。あるのは、縁だけだと思っています。共に笑い合い切磋琢磨して合格を掴み取る人間関係を築けたことが合格に繋がったと思います。中小企業診断士を目指す皆さまを応援しています。